

**Oracle® Hyperion Enterprise Performance
Management Workspace**

管理ガイド

リリース 11.2.0

F26625-02

2019年10月

著者: EPM Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスのもとで使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。Microsoft Windows, PowerPoint, Word, Excel, Access, Office, Outlook, Visual Studio, Visual Basic, Internet Explorer, Active Directory および SQL Server は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて.....	v
ドキュメントのフィードバック.....	vii
1 EPM Workspace の概要	
EPM System および Enterprise Performance Management について.....	1-1
EPM Workspace について.....	1-1
2 管理ツールとタスク	
Oracle ホームおよび Install Home について.....	2-2
EPM Workspace の管理ツール.....	2-2
「管理」メニュー.....	2-2
EPM Workspace 構成情報.....	2-3
EPM Workspace のタイムアウト.....	2-3
EPM Workspace のサービスの開始と停止.....	2-4
サービス・ポートの割当ての変更.....	2-4
EPM Workspace の開始.....	2-4
EPM Workspace 本番環境の保護.....	2-4
ライフサイクル管理.....	2-5
EPM Workspace Web アプリケーションのファイルへのパッチの適用.....	2-6
EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの抽出.....	2-6
EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの再パッケージ.....	2-6
ログオン・ページのカスタマイズ.....	2-7
トラブルシューティング.....	2-7
3 EPM Workspace の管理	
ユーザーの管理.....	3-1
ユーザーおよびグループのプリファレンスの割当て.....	3-1
EPM Workspace サーバー設定へのアクセス.....	3-2
ユーザー・インタフェースのカスタマイズ.....	3-4
デフォルト言語の選択の変更.....	3-5

ログオン・パネル・イメージの置換え.....	3-5
ユーザー・ログオフ後の URL のリダイレクト.....	3-5
クライアント・インストーラへのアクセスの削除.....	3-5
アイテムとフォルダの編成.....	3-6

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害があるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントのフィードバックを提出するには、epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信するか、Oracle Help Center のトピックで「目次」のすぐ下にある「フィードバック」ボタンをクリックします(場合によってはボタンを表示するために下にスクロールする必要があります)。

次のソーシャル・メディア・サイトで、EPM Information Development をフォローしてください。

LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

YouTube - <https://www.youtube.com/oracleepminthecloud>

EPM Workspace の概要

次も参照:

[EPM System および Enterprise Performance Management について](#)

Oracle Enterprise Performance Management System は、複数の製品から成る包括的な Enterprise Performance Management (EPM) システムです。

[EPM Workspace について](#)

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace は、Oracle および Oracle 以外のすべてのコンテンツにアクセスする際に使用する Web ユーザー・インタフェースです。Oracle コンテンツには Oracle のすべての財務アプリケーションが含まれます。

EPM System および Enterprise Performance Management について

Oracle Enterprise Performance Management System は、複数の製品から成る包括的な Enterprise Performance Management (EPM) システムです。

- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace — オーサリング・スタジオおよび財務アプリケーションによって作成されたコンテンツの表示および対話型操作に必要なユーザー・インタフェースを提供するゼロフットプリントのクライアントです。
- Oracle Hyperion Foundation Services - インストールおよび構成を簡易化します。また、メタデータ管理機能があり、Microsoft Office の共通インタフェースをサポートします
- Oracle Hyperion Application Builder for .NET - 集約されたプランニング、集計およびスコアカードのアプリケーションです

EPM Workspace について

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace は、Oracle および Oracle 以外のすべてのコンテンツにアクセスする際に使用する Web ユーザー・インタフェースです。Oracle コンテンツには Oracle のすべての財務アプリケーションが含まれます。

EPM Workspace では、次のコンテンツにアクセスできます:

- Oracle Hyperion Financial Reporting - Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management および Oracle Hyperion Profitability and Cost Management を含む任意のデータ・ソースからのスケジュール済またはオンデマンドの高度フォーマット済財務レポートおよび業務レポートの作成
- Financial Management および Planning - 連結およびプランニング・アプリケーション・タスク

- Profitability and Cost Management - 部門の収益性の計算に必要なコストと収益の配分の管理
- Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition - Oracle Hyperion Financial Data Quality Management のモジュールであり、Enterprise Resource Planning (ERP) ソース・システムのデータとメタデータを、Enterprise Performance Management (EPM) ターゲット・アプリケーションに統合します
- Oracle Hyperion Financial Close Management - 企業が決算期間の相互依存アクティビティを定義、実行およびレポートするのに役立ちます
- Oracle Hyperion Calculation Manager—ビジネス上の問題を解決する計算の作成、検証、デプロイおよび起動
- Oracle Hyperion Shared Services Console—Oracle Enterprise Performance Management System 製品のセキュリティ・コンポーネントおよび移行

ノート: EPM Workspace は、製品のユーザー・シン・クライアント(UTC)または共通ユーザー・インタフェースを指します。

ノート: システム要件の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System 動作保証マトリックス(<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>)を参照してください

管理ツールとタスク

次も参照:

Oracle ホームおよび Install Home について

複数の Oracle 製品を同じコンピュータにインストールすると、共通の内部コンポーネントやサードパーティ製コンポーネントが Oracle ホームという中央の場所にインストールされます。

EPM Workspace の管理ツール

管理ツールには、「管理」メニュー、構成情報およびタイムアウトが含まれます。

EPM Workspace サービスの開始と停止

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace を開始するには、各インストール・ホームでサービスを開始し、(通常は Web サーバー上で)EPM Workspace サブレットの各インストールを開始します。

サービス・ポートの割当ての変更

リリースの互換性、前提条件、デフォルト・ポートおよび正常なインストールのプランに必要なその他の情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System* インストール概要を確認してください。

EPM Workspace の開始

Web サーバーのドキュメントに記載されている手順に従って、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace サーバーを開始します。

EPM Workspace 本番環境の保護

セキュリティ上の理由から、いくつかのパラメータはデフォルトでは無効で、使用できません。

ライフサイクル管理

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System のライフサイクル管理には、Oracle Enterprise Performance Management System 製品のアプリケーション、リポジトリ、または個別のアーティファクトを製品環境およびオペレーティング・システムの間で移行する一貫した方法があります。

EPM Workspace Web アプリケーションのファイルへのパッチの適用

Oracle では、カスタマイズに関する記録を取ることをお勧めします。これにより、正式に適用されたパッチ・ファイルに対して、カスタマイズの内容を再度実装できます。新たに適用されたパッチ・ファイルを古いカスタマイズ・ファイルで上書きしないでください。

ログオン・ページのカスタマイズ

ログオン・ページをカスタマイズして所有権表示を追加できます。

トラブルシューティング

管理者は Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace でログ・ファイルを生成して、システムまたは環境の問題を検出したり、レポートや API プログラムをデバッグできます。

Oracle ホームおよび Install Home について

複数の Oracle 製品を同じコンピュータにインストールすると、共通の内部コンポーネントやサードパーティ製コンポーネントが Oracle ホームという中央の場所にインストールされます。

Windows プラットフォームでは、Oracle ホーム(Oracle データベース製品を含む)の場所は、`EPM_ORACLE_HOME`(すべての Oracle 製品を含む)というシステム環境変数で定義され、そのデフォルトの場所は `C:/Oracle/Middleware/PMSys11R1` です。ミドルウェアには、WebLogic などの製品が含まれます。

UNIX プラットフォームでは、Oracle ホームの値はそのホーム・ディレクトリの `.hyperion.<hostname>` に格納され、そのデフォルトの場所は `$HOME/Oracle/Middleware/EPMSys11R1` です。

Oracle ホームの場所を変更する方法の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド*を参照してください。

Oracle ホームには `\common` ディレクトリがあります。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace をインストールすると、`EPM_ORACLE_HOME/products/Foundation/workspace` ディレクトリが Oracle ホームに追加されます。これは EPM Workspace のデフォルトのインストール場所すなわちインストール・ホームです(つまり、Windows では `EPM_ORACLE_HOME\products\Foundation\workspace`、UNIX では `EPM_ORACLE_HOME/products/Foundation/Workspace`)。

EPM Workspace の管理ツール

管理ツールには、「管理」メニュー、構成情報およびタイムアウトが含まれます。

次も参照:

[「管理」メニュー](#)

[EPM Workspace 構成情報](#)

[EPM Workspace のタイムアウト](#)

「管理」メニュー

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の「管理」メニューを使用して次を管理します:

- Workspace 設定([EPM Workspace サーバー設定へのアクセス](#)を参照)
- 連結管理
- Planning 管理
- データ管理
- Calculation Manager (*『Oracle Hyperion Calculation Manager 設計者ガイド』*を参照)
- Shared Services Console

- Profitability アプリケーション

EPM Workspace 構成情報

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace インストールの構成情報は、次の場所から入手できます。

`http://hostname:port/workspace/debug/configInfo.jsp`

ここで、*hostname* は EPM Workspace サーバーの名前、*port* は HTTP またはアプリケーション・サーバーがリスニングする TCP ポートです。

Oracle Application Server を使用している場合、EPM Workspace のデフォルトのポートは 19000 です。19000 は、HTTP サーバーがリスニングするデフォルトの TCP ポートです。このポート番号は、使用しているアプリケーション・サーバーまたはサブレット・コンテナに依存しません。

ノート: 構成 URL を無効にするには、[EPM Workspace 本番環境の保護](#)を参照してください。

EPM Workspace のタイムアウト

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace は、ユーザーのアクティブ・セッションを次の方法で管理します:

- EPM Workspace は、ユーザーの現在のセッションで使用されているすべてのアプリケーション・サーバー(自身も含む)にキープ・アライブ要求を送信します。

このキープ・アライブ要求は、アプリケーション・サーバーがセッションを無効にしないように、ブラウザとアプリケーション・サーバー間のセッションを維持します。たとえば、一度 Oracle Hyperion Financial Reporting レポートが開いたら、EPM Workspace が Financial Reporting サーバーにキープ・アライブ要求を送信するため、ユーザーは Financial Reporting アプリケーション・サーバーでセッションを再び開く必要なく、Financial Reporting レポートをさらに開くことができます。

これらの要求を送信する間隔は、EPM Workspace の「サーバー設定」、「キープアライブ間隔」プロパティで設定されます。このプロパティは、EPM Workspace で使用されているどのアプリケーション・サーバーのタイムアウト値よりも小さい値に設定する必要がある、これより高い値が設定されている場合は、アプリケーション・サーバーのタイムアウトによるエラー・メッセージが表示される場合があります。

- EPM Workspace は、ユーザーが EPM Workspace の使用を停止したが、ブラウザを閉じていない場合、セッションを閉じます。

EPM Workspace の「サーバー設定」、「セッションのタイムアウト」プロパティに従い、EPM Workspace でアクティビティがない場合は、セッションが終了しようとしていることを警告されます。ユーザーが 5 分以内に対処しない場合、そのユーザーはログアウトされます。

EPM Workspace デプロイメントの `timeout` 設定を編集するには、WebLogic 管理コンソールを使用します。

ノート: すべての Web アプリケーション・セッションのタイムアウトは 10 分より長くする必要があります。

EPM Workspace のサービスの開始と停止

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace を開始するには、各インストール・ホームでサービスを開始し、(通常は Web サーバー上で)EPM Workspace サブレットの各インストールを開始します。

サービスを開始する方法はオペレーティング・システム、システム構成、および目的によって異なります。サービスを停止する方法は、これらを開始した方法に基づきます。

サービス・ポートの割当ての変更

リリースの互換性、前提条件、デフォルト・ポートおよび正常なインストールのプランに必要なその他の情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System* インストール概要を確認してください。

システム要件の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 動作保証マトリックス(<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>)を参照してください。

EPM Workspace の開始

Web サーバーのドキュメントに記載されている手順に従って、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace サーバーを開始します。

システムのエンドユーザーに対して、URL を使用可能にします。Oracle ホーム・サービスを開始するには、別のサービスまたはシェル・スクリプトを使用します。

Windows の場合、`MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/bin/startFoundationServices.bat` (`MIDDLEWARE_HOME` のデフォルトの場所は `C:\Oracle\Middleware`)の Oracle Hyperion Foundation Services Manager を参照してください。

UNIX の場合、`MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/bin/startfoundationservices.sh` の Foundation Services Manager を参照してください。Oracle Process Manager は http サーバーの開始に使用されるサービスです。

EPM Workspace では、次の URL を入力します:

```
http://hostname:port/workspace/
```

ここで、`hostname` は EPM Workspace サーバーの名前、`port` はアプリケーション・サーバーがリスニングしている TCP ポートです。Oracle Application Server を使用している場合、EPM Workspace のデフォルトのポートは 19000 です。19000 は、HTTP サーバー(たとえば Oracle Application Server)がリスニングするデフォルトの TCP ポートです。このポート番号は、使用しているアプリケーション・サーバーまたはサブレット・コンテナ(Oracle Application Server など)に依存しません。

EPM Workspace 本番環境の保護

セキュリティ上の理由から、いくつかのパラメータはデフォルトでは無効で、使用できません。

これらのパラメータを使用可能にするには、「Workspace サーバー設定」の「クライアント・デバッグの使用可能」パラメータを「はい」に設定します。

- **構成 URL** - アクセスするために管理資格証明が必要なシステム構成の詳細は、[EPM Workspace 構成情報](#)を参照してください。
- **EPM Workspace テスト・モジュール** - `wksp.widgets` にテスト・ケースおよびデバッグ・ユーティリティが含まれており、Oracle Hyperion Enterprise

Performance Management Workspace をデバッグ・モードで実行しているときにアクセスできます。

- **クライアント側デバッグ・モード** - デバッグに使用されるクライアント側デバッグ・コンソール(`pass debug = true`)です。これにより、クライアント・デバッグ・メッセージを表示するデバッグ・コンソールが使用可能になり、高速処理されない JavaScript コードがアプリケーションで使用されます。

EPM Workspace には、トラブルシューティング用の圧縮されていない JavaScript コードが含まれています。

このコードを削除してアクセスされないようにするには:

1. **EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの抽出**の指示に従います。
2. 含まれているディレクトリ名に一致しない `bpmstatic/js` および `static/js` 下の `.js` ファイルを削除します。
たとえば、`/js/com/hyperion/bpm/web/common/Common.js` を除く `/js/com/hyperion/bpm/web/common` ですべてのファイルを除去します。
3. **EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの再パッケージ**の指示に従います。

サービス修正を適用すると、これらのファイルは復元されることに注意してください。

ライフサイクル管理

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System のライフサイクル管理には、Oracle Enterprise Performance Management System 製品のアプリケーション、リポジトリ、または個別のアーティファクトを製品環境およびオペレーティング・システムの間で移行する一貫した方法があります。

一般的には、Oracle Hyperion Shared Services Console のライフサイクル管理インタフェースは、ライフサイクル管理をサポートするすべての EPM System 製品に対して一貫しています。ただし、EPM System 製品では、ライフサイクル管理インタフェースで、様々なアーティファクトのリストおよびエクスポートとインポートのオプションが表示されます。

ライフサイクル管理の機能:

- アプリケーションおよびフォルダの表示
- アーティファクトの検索
- アプリケーションから他のアプリケーションへの直接的な移行
- ファイル・システム間の移行
- 移行定義ファイルの保存およびロード
- 選択されたアーティファクトの表示
- 移行の監査
- 移行のステータスの表示
- ファイル・システムにおけるクイック変更のための個々のアーティファクトのインポートおよびエクスポート

Shared Services Console のライフサイクル管理インタフェースに加え、ライフサイクル管理ユーティリティと呼ばれるコマンドライン・ユーティリティには、ソースから移行先にアーティファクトを移行させる代替方法を備えています。ライフサイクル管理ユーティリティは、Windows タスク・スケジューラや Oracle Enterprise Manager などのサードパーティ製のスケジューリング・サービスと併用できます。

また、ユーザーが Oracle Fusion Lead Management 機能をカスタマイズおよび拡張できるようにするライフサイクル管理アプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)もあります。

EPM Workspace Web アプリケーションのファイルへのパッチの適用

Oracle では、カスタマイズに関する記録を取ることをお勧めします。これにより、正式に適用されたパッチ・ファイルに対して、カスタマイズの内容を再度実装できます。新たに適用されたパッチ・ファイルを古いカスタマイズ・ファイルで上書きしないでください。

次の各トピックで説明するパッチ適用および抽出の手順は、このガイドに記載されているカスタマイズにのみ適用されます。正式な Oracle OPatch を適用した場合、Web アプリケーションまたは静的ファイルのすべてのカスタマイズまたは手動の変更を再度適用する必要があります。

- [EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの抽出](#)
- [EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの再パッケージ](#)

EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの抽出

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Web アプリケーション内でファイルを抽出するには、次の手順に従います:

1. Oracle Hyperion Foundation Services 管理対象サーバーのサービスを停止します。
2. ファイル `EPM_ORACLE_HOME/products/Foundation/workspace/InstallableApps/workspace.ear` をバックアップします。
3. 解凍ユーティリティを使用して、`EPM_ORACLE_HOME/products/Foundation/workspace/InstallableApps/workspace.ear` のコンテンツを `<temp directory>` に抽出します。
4. `<temp directory>/war` を作成します。
5. `<temp directory>/workspace.war` のコンテンツを `<temp directory>/war` に抽出します。
6. `<temp directory>/war` の下にある、パッチ適用対象のファイルを更新します。

EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの再パッケージ

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Web アプリケーション内でファイルを再パッケージするには、次の手順に従います:

1. `<temp directory>/war` のファイルを `<temp directory>/workspace.war` にアーカイブします。
2. `<temp directory>/workspace.war` を `EPM_ORACLE_HOME/products/Foundation/workspace/InstallableApps/workspace.ear` にアーカイブします。

3. WebLogic の一時ディレクトリ `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/domainName/servers/FoundationServices/tmp/` のコンテンツを削除します。
4. WebLogic の一時ディレクトリ `/Documents and Settings/<machine user name/Local Settings/Temp/<machine user name/servers/FoundationServices/tmp/` のコンテンツを削除します。
5. Oracle Hyperion Foundation Services 管理対象サーバーのサービスを開始します。
6. ブラウザのキャッシュを消去します。

ログオン・ページのカスタマイズ

ログオン・ページをカスタマイズして所有権表示を追加できます。

これにより、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace へのログイン時に、会社はすべてのユーザーにこれをブロードキャストできます。この情報は、著作権情報の下に表示されます。

ログオン・ページをカスタマイズするには:

1. すべてのサービスを停止します。
2. `EPM_ORACLE_HOME/common/bpmui-common/11.1.2.0/bpmui.jar` をバックアップします
3. 解凍ユーティリティを使用して、`EPM_ORACLE_HOME/common/bpmui-common/11.1.2.0/bpmui.jar` のコンテンツを `<temp directory>` に抽出します。
4. ファイル `<temp directory>/com/hyperion/bpm/Resources_en.properties` を編集します。
5. プロパティ `bpm.logonCopyright` を検索します。
6. 等号(=)の右側のテキストを変更します。改行するには、`\n` を使用します。
7. 変更を保存します。
8. 他のロケールの、その他すべての `Resources_xx.properties` ファイルに対して、手順 4 から手順 7 を繰り返します。
9. `<temp directory>` のコンテンツで jar ファイル `EPM_ORACLE_HOME/common/bpmui-common/11.1.2.0/bpmui.jar` を作成します。
10. すべてのサービスを起動します。
11. ブラウザのキャッシュを消去します。

トラブルシューティング

管理者は Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace でログ・ファイルを生成して、システムまたは環境の問題を検出したり、レポートや API プログラムをデバッグできます。

EPM Workspace トラブルシューティングの情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System インストールおよび構成トラブルシューティング・ガイド* を参照してください。ログインについては、*EPM System ログの使用方法* に関する章に記載されています。

セキュリティ上の理由から、次の EPM Workspace パラメータはトラブルシューティング、テストおよびデバッグにも利用できませんが、デフォルトでは無効で、使用できません。

- 構成 URL (EPM Workspace のインストールと Oracle Hyperion Shared Services に関する完全な構成情報が含まれる)
- EPM Workspace テスト・モジュール
- クライアント側デバッグ・モード

これらのパラメータを有効にするには:

1. EPM Workspace で、「ナビゲート」、「管理」、「Workspace 設定」、「サーバー設定」の順に選択します。
2. 「Workspace サーバー設定」で「クライアント・デバッグの使用可能」パラメータを「はい」に設定します。

EPM Workspace の管理

次も参照:

ユーザーの管理

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の管理には、ユーザー、グループおよび役割の管理が含まれます。

ユーザーおよびグループのプリファレンスの割当て

デフォルト・プリファレンスで正常に動作できるためには、指定されたフォルダおよびインタフェース要素にアクセスするために必要な役割および権限がユーザーおよびグループに必要です。

EPM Workspace サーバー設定へのアクセス

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のサーバー設定にアクセスするには、「ナビゲート」、「管理」、「Workspace 設定」、「サーバー設定」の順に選択します。

ユーザー・インタフェースのカスタマイズ

ユーザー・インタフェースのカスタマイズには、デフォルト言語の選択の変更、ログオン・パネル・イメージの置換え、URL のリダイレクトおよびクライアント・インストーラの削除が含まれます。

アイテムとフォルダの編成

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace が効率よく機能するために、ユーザーがアイテムに迅速かつ容易にアクセスできるようにフォルダ構造を作成します。

ユーザーの管理

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の管理には、ユーザー、グループおよび役割の管理が含まれます。

ユーザー、グループ、役割の管理の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management System ユーザー・セキュリティ管理ガイド*を参照してください。

ユーザーおよびグループのプリファレンスの割当て

デフォルト・プリファレンスで正常に動作できるためには、指定されたフォルダおよびインタフェース要素にアクセスするために必要な役割および権限がユーザーおよびグループに必要です。

プリファレンスを管理するには管理者権限が必要です。コンテンツを表示するには、十分な権限も必要です。個人およびグループのプリファレンスは、デフォルトのプリファレンスより優先されます。詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management System ユーザー・セキュリティ管理ガイド*を参照してください。

ユーザーおよびグループのプリファレンスを割り当てるには:

1. Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace で、「ナビゲート」、「管理」、「Workspace 設定」、「プリファレンスの管理」の順に選択します。

2. 「ユーザーの選択」で、「使用可能なユーザー」または「使用可能なグループ」を選択してから、「リストの更新」をクリックします。
3. 目的のユーザーまたはグループを「使用可能なユーザー」または「使用可能なグループ」から「選択されたユーザーとグループ」に移動し、「次」をクリックします。
4. 「プリファレンスの管理」で次のプリファレンスを割り当てます:
 - デフォルトの起動オプション - ドロップダウンをクリックし、EPM Workspace を起動したときに最初に表示される画面を選択します。
 - 「アクセシビリティ・モード」 - 選択したユーザーおよびグループに対するスクリーン・リーダー・サポートを有効にするかどうかを指定します。
5. 「次へ」、「終了」の順にクリックして、ユーザーおよびグループのプリファレンスを保存します。

EPM Workspace サーバー設定へのアクセス

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のサーバー設定にアクセスするには、「ナビゲート」、「管理」、「Workspace 設定」、「サーバー設定」の順に選択します。

ノート:

EPM Workspace のサーバー設定を変更する場合は、変更を有効にするためにログアウトしてブラウザを再起動する必要があります。

表 3-1 EPM Workspace の一般的なサーバー設定

設定	説明
サポートされているロケール	EPM Workspace でサポートされているロケール 「ここをクリックすると編集します」を選択すると、値リストが開きます。サポートされているロケールを特定の EPM Workspace 構成の「使用できる値」と「割り当てられている値」間で移動できます。
デフォルトのロケール	ユーザー要求のロケールをロードできない場合のアプリケーションのデフォルトのロケール。デフォルト値は「英語」です。
クライアント・デバッグの使用可能	ブラウザ側の EPM Workspace デバッグ機能を抑制するかどうか。デフォルト値は「いいえ」です。
セッションのタイムアウト	アイドル状態のユーザーがクライアント側の EPM Workspace から強制的にログアウトされるまでの時間間隔(分)。デフォルト値は 30 です。最大値は 1440 です。
キープアライブ間隔	HTTP セッションを維持するために、開かれている各コンテキストへの EPM Workspace の ping 間の時間間隔(分)。これはサーバー側の値です。デフォルト値は 10 です。
必要なログオン役割	EPM Workspace にログオンするために必要な役割。デフォルト値は「なし」です。
ネイティブ・ユーザーのパスワード変更可能	ネイティブ・ユーザーが自分のパスワードを変更できるかどうか。デフォルト値は「はい」です。

表 3-1 (続き) EPM Workspace の一般的なサーバー設定

設定	説明
HTTP 要求 URL の資格証明の受入れ	デフォルト値は「いいえ」です。「いいえ」に設定すると、要求パラメータ <code>sso_token</code> 、 <code>sso_username</code> および <code>sso_password</code> は HTTP 要求 URL で無視されます。これらは HTTP POST 要求本文で送信された場合のみ受け入れられます。動作を停止する URL の例: <code>http://host:port/workspace/?sso_username=admin&sso_password=mypassword</code>
SSO 失敗後の直接ログオンを許可	デフォルト値は「いいえ」です。シングル・サインオン(SSO)が有効で SSO 認証が失敗した場合に、ユーザーが直接ログオンできるようにするには、「はい」を選択します。
ユーザー表示名の使用可能	デフォルト値は「いいえ」です。「はい」に設定した場合、EPM Workspace の右上隅にあるようこそメッセージ領域に、ユーザーの完全な表示名が表示されます。表示名には、通常、姓と名が含まれます。たとえば、この値を「はい」に設定すると、「 JSMITH としてログイン」ではなく「 John Smith としてログイン」と表示されます。
ログオン時にユーザー名を記憶	「はい」に設定すると、ログオンが正常に終了した後にユーザーの名前が Cookie として記憶されます(そうでない場合は、既存の Cookie が削除されます)。デフォルト値は「いいえ」です。

表 3-2 EPM Workspace メッセージ

設定	説明
メッセージ・ファイル	「ここをクリックすると編集します」を選択するとダイアログ・ボックスが開き、ユーザーに送信するメッセージのテキストを入力できます。メッセージは、現在ログインしているすべてのユーザー、または EPM Workspace に初めてログインするユーザーに送信されます。
クライアント・メッセージ・ポーリング間隔	新規メッセージを確認する間隔。値は分単位で入力します。値にゼロを指定した場合、メッセージング・システムは無効化され、新たにログオンしたユーザーはメッセージを受信しません。デフォルトは 0 です。
サーバー・メッセージ・キヤッシュ	メッセージ・ステータスの変更を Web アプリケーションがチェックする頻度。コマンド・ラインからメッセージを更新する場合は、このパラメータを使用します。ダイアログ・ボックスからメッセージを変更した場合、変更は即時に反映されます。入力した値は分を表します。デフォルト値は 10 分です。

表 3-2 (続き) EPM Workspace メッセージ

設定	説明
<p>User Productivity Kit への URI 注意: UPK を EPM Workspace で使用できるのは、Oracle Hyperion Planning や Oracle Hyperion Financial Management など UPK をサポートする製品の場合のみです。</p>	<p>Oracle User Productivity Kit (URI)には、本稼働環境のユーザーをサポートするために設計されたライブラリが含まれています。ヘルプ・システムと統合されている場合、UPK は、ユーザーのタスク実行方法を反映したコンテキスト依存のトレーニング・シミュレーションを提供します。UPK を実装するには:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「User Productivity Kit への URI」フィールドに次の URI を入力します: <code>http://<anydomain/>full_content_path_to_upk_content/></code> これは UPK がある場所です。 EPM Workspace でアクセスされる製品の場合、URL <code>http://any_domain/full_content_path_to_UPK_content/{gateway_page}</code>の{gateway-page}は Oracle コンテンツがある場所です。「User Productivity Kit への URI」フィールドに{gateway-page}を入力しないでください。 EPM Workspace が、正しい値の{gateway-page}を URL <code>http://any_domain/full_content_path_to_UPK_content/{gateway_page}</code>に自動的に追加します。 URI の入力例: <code>http://localhost/upkcontent</code> 2. 「OK」をクリックします。 3. EPM Workspace をログアウトします。 4. EPM Workspace に再びログインすると UPK が有効になっています。 <p>注意: 「ヘルプ」メニューに「Oracle User Productivity Kit」が表示されます。オンライン・ヘルプとして、ツールバーに UPK ボタンも表示されます。</p>
<p>ポスト・ログオフ URL</p>	<p>ユーザーがログオフした後の UI のリダイレクト先 URL。</p>
<p>Workspace のインストーラ・メニュー・アイテムの使用可能</p>	<p>EPM Workspace のインストーラ・メニュー・アイテムを使用可能にするかどうか。これらのアイテムは、「ツール」メニューにあります。デフォルト値は「はい」です。</p>
<p>使用可能な製品</p>	<p>インストール済で実行されていない製品を使用不可にします。「ここをクリックすると編集します」を選択すると、選択解除できる製品が示されたダイアログ・ボックスが開きます。チェックを外すと、その製品は、インストールされていないかのように、次のログオン時には統合が解除されます。</p>

ユーザー・インタフェースのカスタマイズ

ユーザー・インタフェースのカスタマイズには、デフォルト言語の選択の変更、ログオン・パネル・イメージの置換え、URL のリダイレクトおよびクライアント・インストーラの削除が含まれます。

次も参照:[デフォルト言語の選択の変更](#)[ログオン・パネル・イメージの置換え](#)[ユーザー・ログオフ後の URL のリダイレクト](#)[クライアント・インストーラへのアクセスの削除](#)

デフォルト言語の選択の変更

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace では、ユーザーの Web ブラウザからロケール情報が読み取られ、ブラウザ・ロケール設定に基づいて使用する言語が選択されます。特定の場合において、ユーザーは、ブラウザ・ロケールで決定される以外の言語でコンテンツを表示できます。ユーザーは、Web ブラウザ言語オプションに言語を追加し、ブラウザで使用する言語をリストの上部に移動して、ロケールベースの言語の選択を上書きできます。

EPM Workspace では、優先度の順序でサポートされている言語が自動的に選択されます。ここでは言語とロケール・コード間の正確な一致が試行されます。一致する条件に近いものが見つからない場合、EPM Workspace では、言語コードにのみ基づいて一致が試みられ、国コードは無視されます。

ノート: デフォルト言語に選択した設定は、EPM Workspace 内のすべてのコンポーネントに適用されます。

ログオン・パネル・イメージの置換え

ログオン・パネルに表示されるイメージを置き換えるには:

1. 前のイメージに一致するディメンションを使用して `logon_panel.gif` というイメージ・ファイルを作成します。
2. [EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの抽出](#)の手順に従います。
3. 次のディレクトリにある `logon_panel.gif` ファイルを手順 1 で作成した `logon_panel.gif` ファイルで置き換えます:

```
<temp_directory>/war/bpmstatic/themes/theme_skyros/
images_global/
```

4. [EPM Workspace Web アプリケーション内のファイルの再パッケージ](#)の手順に従います。

ユーザー・ログオフ後の URL のリダイレクト

カスタム・ポータルとの統合を容易にするために、管理者は、ユーザーが Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace をログオフした後、Web ブラウザを任意の静的 URL にリダイレクトできます。この設定は、「Workspace サーバー設定」で構成できます。[EPM Workspace サーバー設定へのアクセスの「ポスト・ログオフ URL」](#)の説明を参照してください。デフォルトでは、ユーザーが EPM Workspace からログオフされます。

クライアント・インストーラへのアクセスの削除

管理者は、ユーザーが Oracle Enterprise Performance Management System クライアントをインストールするために使用できる「インストール」メニュー・オプション(「ツール」

および「インストール」を非表示にすることができます。この設定は、「Workspace サーバー設定」で構成できます。[EPM Workspace サーバー設定へのアクセス](#)の「Workspace のインストーラ・メニュー・アイテムの使用可能」の説明を参照してください。

アイテムとフォルダの編成

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace が効率よく機能するために、ユーザーがアイテムに迅速かつ容易にアクセスできるようにフォルダ構造を作成します。

フォルダの階層では、フォルダ・サイズと階層の深さのバランスを取ります。フォルダには、多数のアイテム、またはフォルダ階層の過度の数のレベルを含まないようにします。特定のフォルダを削除しないでください。